

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2319 号

Response of schizophrenic patients to dynamic facial expressions: an ERP study

(統合失調症患者の表情の動き認知の事象関連電位を用いた検討)

福田 麻由子 (ふくた まゆこ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

統合失調症では顔貌認知、情動の認識および社会的判断の障害を認め、これらがコミュニケーション機能障害と関連していると報告されている。統合失調症患者では情動に関して健常者とは異なる識別や認知の方略を有すると考えられている。

今回我々は統合失調症患者群(患者群)と健常対照群(対照群)を対象として、動きのある表情の視覚刺激を用いて、事象関連電位 (ERP) の検査を行い、表情の動きの認知について研究した。

その結果、対照群においては、静止した顔刺激と比較して、動きがある刺激に対する N200 潜時は延長していた。また P100-N200 peak to peak 振幅は高振幅であった。しかし一方、患者群では静止した刺激と動く刺激の間に有意な差を認めなかった。患者群では、動きのある陰性感情の顔刺激に対する N200 潜時と、PANSS(positive and negative syndrome scale) の総合精神病理尺度のスコアに負の相関を認めた。

対照群では静止した表情認知に比較して、動きのある表情認知ではより複雑で多くの情報量を含んだ情報処理を必要とすると考えられた。また、この両群の結果の違いは、患者群における静止した顔刺激への過敏さと動きのある情動刺激への低活性により、これらの刺激への反応の違いが生じなかったことによるものと考えられた。

患者群における、静止した顔刺激への過敏さは、恐怖感が増幅しやすく覚醒度の高い特性を反映しているものと考えられた。そして、動きのある情動刺激への低活性は表情からの恐怖や不安を遠ざけるための注意の偏倚の結果と考えられた。